

防除活動 民間団体等の取り組み

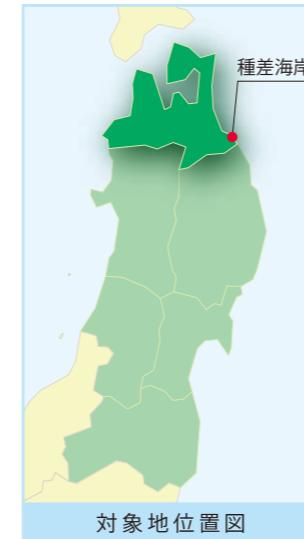
対象種 オオハンゴンソウ

●たねさし外来植物は駆除し隊【青森県八戸市】

八戸市の社会教育課を中心とした職員で構成するボランティア団体です。国の名勝である種差海岸で、近年急速に拡がるオオハンゴンソウの駆除を行っています。

種差海岸

- 対象地
- 種差海岸は、青森県南東部の太平洋岸に位置し、荒波の浸食によってできた海食崖と広大な砂浜や自然の芝生が海岸線まで続く独特の景観を形成しています。分布の南限あるいは北限となる植物が多く見られ、春から秋にかけて500種類以上の野生植物が咲き誇ります。



●被害状況

国の名勝に指定された昭和12年頃の芝草原と現在の景観は大きく変化しています。この理由の一つとしては、馬の放牧が行われなくなり、採食の圧力が減ったことが挙げられます。芝草原が管理されなくなったことから外来植物が多く侵入し、近年では特にオオハンゴンソウが急速に拡がり、在来植物の分布域を減少させています。

●取り組みの概要

種差海岸の保全に取り組む「鷗盟大学OB」や「種差海岸ボランティアガイドクラブ」、「青森県退職校長会」などと協力し、景観が優れている場所で優先的に駆除を実施しています。花が咲く前の時期に、各団体の活動を1ヶ月程ずらすことにより、効果的な駆除ができるよう工夫しています。また、定期的に現地を観察し、分布状況をモニタリングしています。



対象種 ウシガエル

●久保川イーハトーブ自然再生協議会【岩手県一関市】

URL <http://www.jumokuso.or.jp/kubokawa/index.html>

久保川流域に維持されている里地里山を対象に、積極的に生物多様性を再生する活動を行っています。その一環として、対象地域内に分布するため池において、主にウシガエルを対象とした駆除を実施しています。

久保川流域



●対象地

岩手県南部・磐井丘陵帯に位置する久保川流域には、小区画の水田やため池群、周辺の雑木林等により構成される伝統的な里地里山景観が現在も随所に残されています。こうした環境には、希少な魚類や水生昆虫、植物が多く生息・生育しており、「にほんの里100選」「ため池百選」にも選ばれています。

●被害状況

久保川流域には、オオクチバス等の外来水生生物の侵入が少ない点が特徴として挙げられます。10年前からは、下流側のため池を中心にウシガエルが侵入し、近年では分布域や個体数が急速に拡大しています。また、ウシガエルが侵入したため池では、在来水生昆虫の急速な減少が確認されており、流域全体への影響が懸念されています。

●取り組みの概要

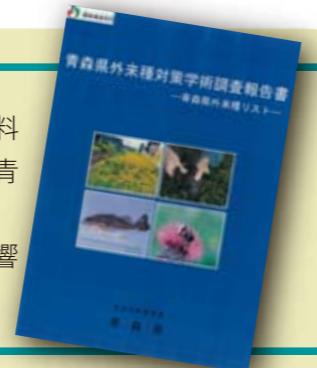
東京大学大学院保全生態学研究室との協力体制の下、主にウシガエルを対象とした駆除活動に取り組んでおり、科学的な視点に立った駆除の取り組み(重点地域の設定、様々な捕獲方法の実施、モニタリング)や、環境学習会や民間企業との連携によるボランティアの確保など、地域住民を含む多様な主体の参加による外来種駆除の取り組みを実践しています。



青森県の取り組み

青森県では、県内に導入された外来種について、その実態の把握と対策の基礎資料とするため、学術調査を実施し、調査結果を【青森県外来種対策学術調査報告書－青森県外来種リスト】として平成18(2006)年に発行しました。

報告書では、国内移入種を含め446種類がリストアップされ、生物多様性への影響の度合い等により6カテゴリーに分けて示されています。



岩手県の取り組み

毎年、各市町村に聞き取り調査を行い外来魚の生息分布について把握すると共に、「ブラックバス等外来魚駆除ハンドブック」(平成22(2010)年1月岩手県)や「ブラックバス放流禁止」標識の配布により、県民意識の向上に努めています。

また、県内の『十和田八幡平』、『早池峰』といった国立・国定公園で、毎年数回、セイヨウタンポポ、フランスギク等の駆除作業を実施しています。

